

まとめ

○遺跡の立地と時代

- ・台地から低地に流れ出した旧河川（旧鴨部川支流）にはさまれた微高地（小高い土地）
- ・弥生時代中期後半～古墳時代前期初頭（約 2,000 ～ 1,750 年前）の集落
- ・古代以降（約 1,300 年前）に周辺の土地の地割に沿った直線的な溝が掘られ、土地整備を実施

○他地域からの持ち込まれたモノ

- ・製塩土器（海浜部）や甕（岡山地方）、結晶片岩（徳島）などが出土し、広範囲からのモノと人の移動を想定
- ・鴨部川沿いに立地し、海浜部から内陸部をつなぐ集落の一つ

○河川埋没後（古代以降）

- ・中世には微高地（小高い土地）に住居が営まれ、遠隔地からもたらされた須恵器も出土
- ・近世には地下水が豊富な環境を利用して、ため池が造られた



日本史年表と是弘遺跡		
時代		是弘遺跡及び周辺
縄文	約1.6万前	
	約2,200年前	是弘遺跡に人が住み始める
弥生	約1,850年前	旧河川が埋没、大量の土器や木製品が捨てられるなど、集落が移動する
	約1300年前	旧河川の跡がほぼ平坦になる
古墳	約1300年前	
	約800年前	微高地に人が再び住み始め、土地利用が活発になる
古代	約800年前	
	約400年前	青木池、金通池が造られる
中世	約400年前	
	約150年前	1964年に周辺一帯で、圃場整備が行われ、現在の姿になる
近世		
近代		
現代		

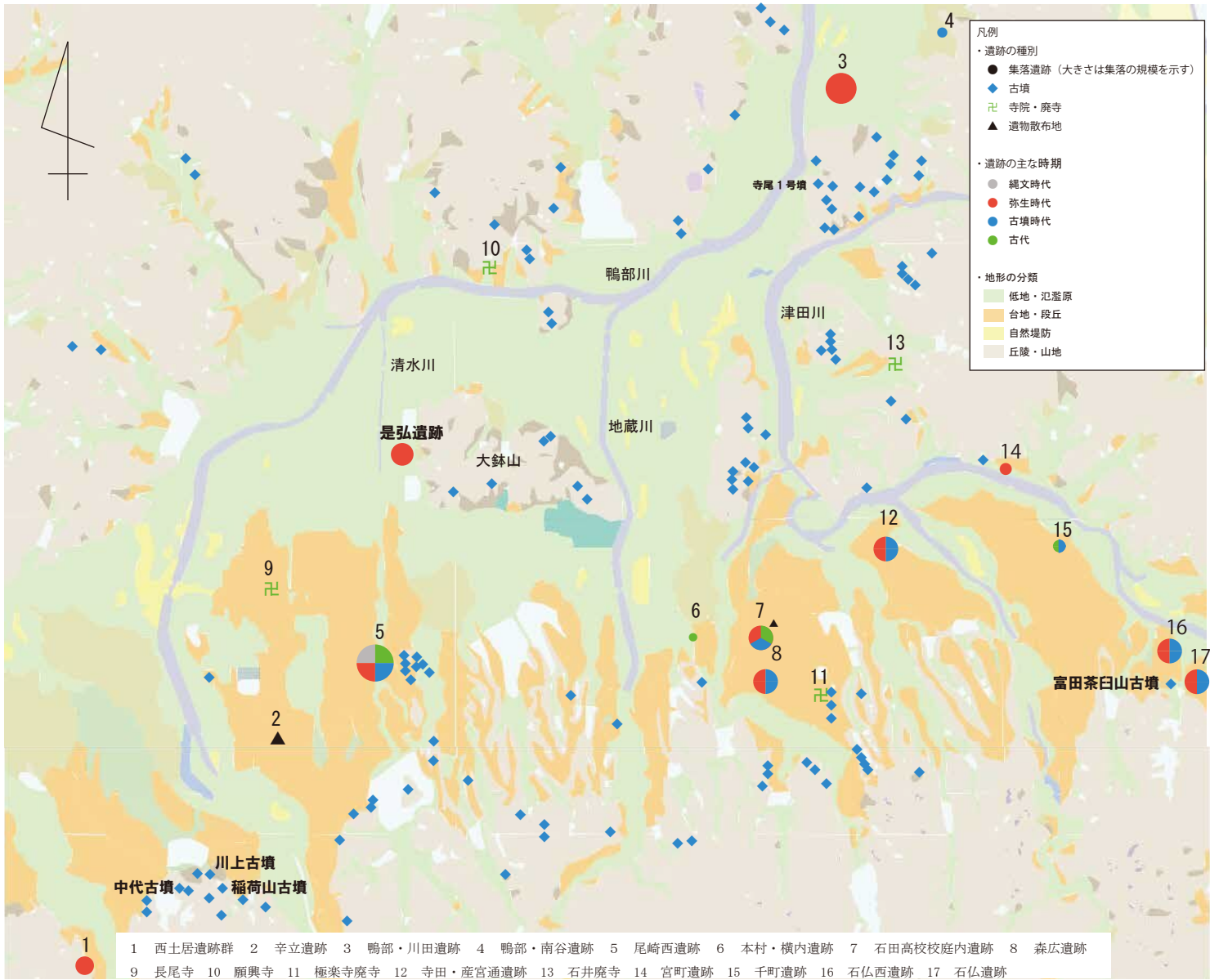
これひろ

是弘遺跡

現地説明会資料
令和7年2月22日(土)

調査期間：令和6年11月1日～令和7年3月31日
調査地点：さぬき市造田野間田・是弘

調査主体：香川県埋蔵文化財センター
調査原因：東讃統合高校建設



国土地理院地図webの土地条件図に加筆

周辺遺跡と地形図

周辺遺跡と地形から見た是弘遺跡

弥生時代集落の是弘遺跡は長尾平野の中央、鴨部川に沿って広がる低地部にあり、南側と東側には切ノ川・清水川がそれぞれ流れています。またそれらの河川により運ばれた粘土や砂が何層も重なっている様子が、調査で分かりました。長尾平野の遺跡は低地部に少ない一方、河川から離れた標高がより高く安定した土地（台地上・丘陵周辺）に集中しています。弥生時代の集落も台地上にあることから、是弘遺跡の集落がやや特異な場所にあることがわかります。

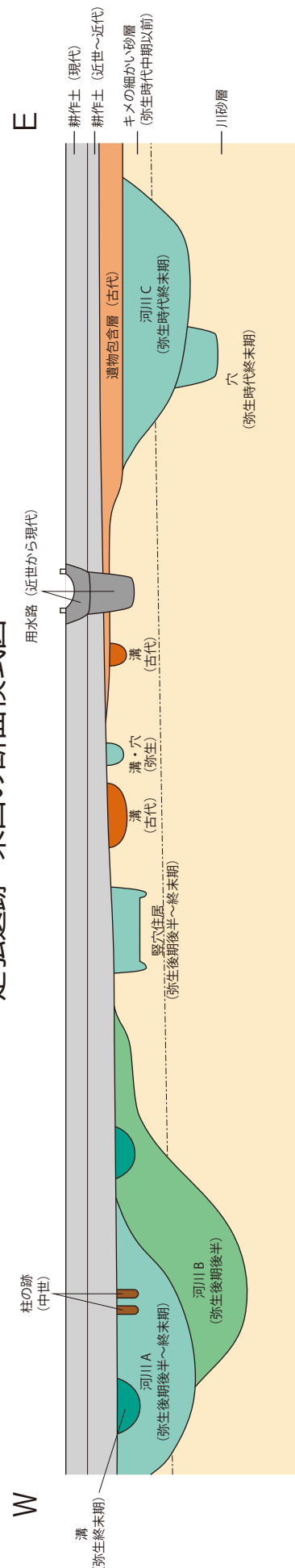


香川県埋蔵文化財センター

〒762-0024 香川県坂出市府中町南谷 5001-4
TEL 0877-48-2191 FAX 0877-48-3249



是弘遺跡 東西の断面模式図



直線的な溝（古代）と用水路（近世）

周辺の土地の地割に沿った直線的な溝が掘削され、古代以降に土地区画の再整備がされた可能性があります。また、近世以降には農地として利用されており、現在まで続く水路が何度かの掘り直しや改修が行われていたことも分かりました。



河川跡の土器群と木製品（弥生）

弥生時代終末期の土器や木製品が多量に見つかり、特に東岸に集中することから、東側の集落より捨てられたと考えられます。また、焼けた木材もあるため、焼け落ちた竪穴住居の部材の可能性があります。



水辺に作られた土坑（弥生終末期）

土坑(人為に掘られた穴)は護岸をしたような痕跡がみられ、中からは板状の木製品が出土しています。水辺に作られた木製品の貯蔵庫の可能性がありま。

